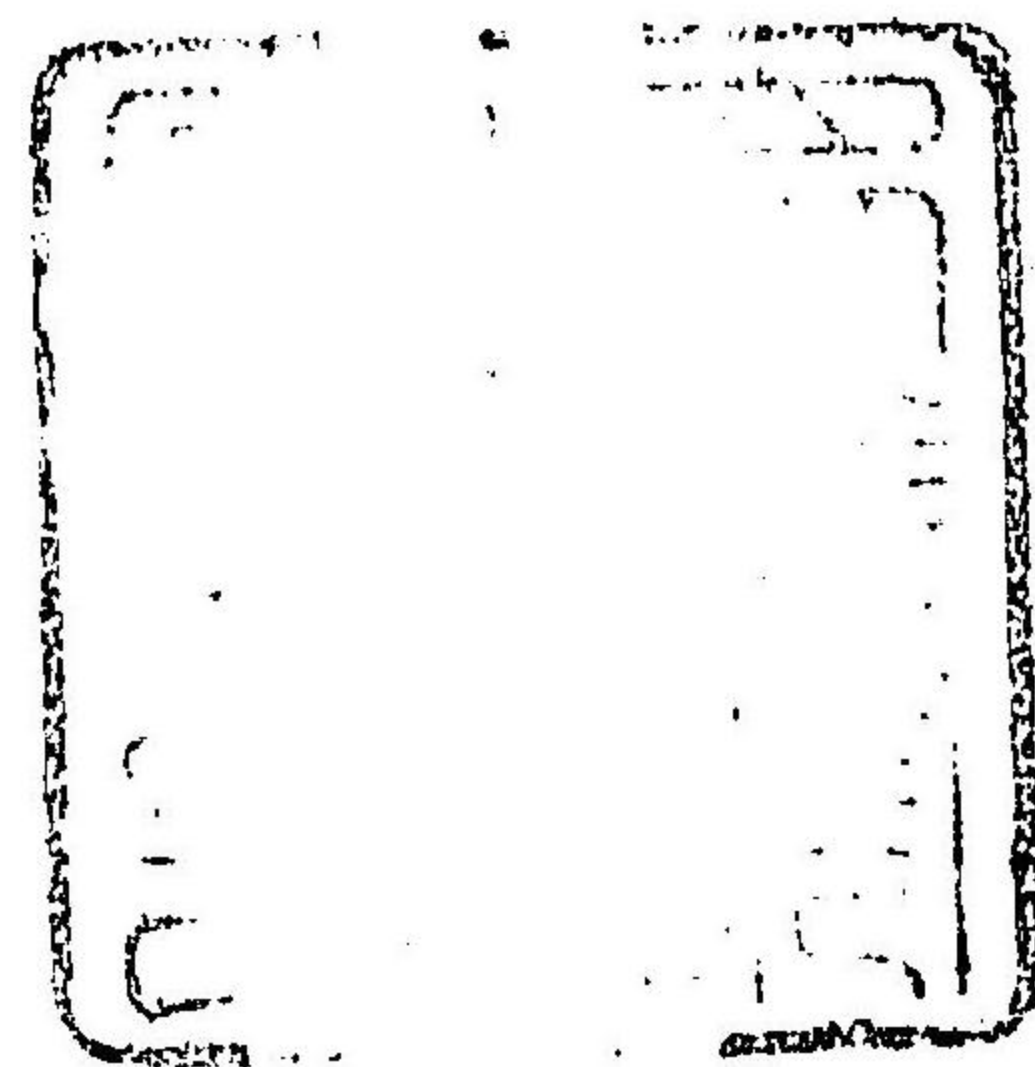


CZ
13
A015

韓國併合顛末書

統
監
府

漢
文
書
房



CZ
13
A-05

韓國併合顛末書

明治三十七年二月在京城ノ帝國代表者ハ韓國政府ト重要ナル協商ヲ遂ケ同
二十三日兩國代表者ニ於テ議定書ノ調印ヲ了セリ時ニ帝國ト露國トノ戰端
既ニ啓ケ韓國ハ滿洲ト共ニ東洋事局ノ中心タリ帝國カ政治上外交上竝軍事
上ノ見地ヨリ韓國政府ト特別ノ協商ヲ爲スノ必要ハ素ヨリ言ヲ俟タサル所
ニシテ本議定書ハ則チ日韓兩國ノ關係ヲ一新シ其ノ後ニ於ケル兩國關係推
移ノ端ヲ爲スモノトス日韓議定書ハ前文及六箇條ヨリ成リ(一)韓國政府カ帝
國政府ヲ確信シ施政ノ改善ニ關シテ其ノ忠告ヲ容ルルコト(二)韓國皇室ノ安
全康寧ノ保證(三)韓國ノ獨立及領土保全ノ保證(四)第三國ノ侵害若ハ内亂ニ依
リ韓國皇室ノ安寧或ハ領土ノ保全ニ危險アル場合ニ帝國政府ハ臨機ノ措置
ヲ取り韓國政府ハ之ニ對シテ十分ノ便益ヲ與フルコト竝帝國政府ハ軍事上
必要ノ地點ヲ收用シ得ルコト(五)兩國政府ハ相互ノ承認ヲ經スシテ本協約ノ
趣意ニ違反スヘキ協約ヲ第三國トノ間ニ訂立スルヲ得サルコト(六)帝國代表
者ト韓國外部大臣トノ間ニ未悉ノ細條ヲ臨機協定スルコトヲ定ム超エテ同

年八月二十二日ニ至リ日韓兩國政府代表者ハ京城ニ於テ協定シタル協約ニ調印セリ本協約ハ三項ヨリ成リ財政外交兩顧問ノ僱聘並韓國政府カ外國トノ條約締結其ノ他重要ナル外交案件即チ外國人ニ對スル特權讓與若ハ契約等ノ處理ニ關シテ豫メ帝國政府ト協議スヘキコトヲ規定ス蓋シ二月ノ議定書ニ依リ日韓兩國ノ關係大ニ進ミタリト雖韓國ニ於ケル施政改善ノ事タル決シテ容易ニアラス且外交ニ關スル議定書ノ取極ハ韓國政府カ同議定書ノ趣意ニ反スル協約ヲ第三國ト締結スルヲ得サルノ一項ニ限リ一般外交ノ處理ニ互リテ詳言スル所ナシ是レ即チ本協約ヲ以テ更ニ兩國ノ關係ヲ一層明確ニ規定シタル所以ナリ

明治三十八年九月日露兩國間ニ締結セラレタル「ポーツマス」條約第二條ニ於テ露國政府ハ帝國カ韓國ニ於テ政事上、軍事上及經濟上ノ卓絶ナル利益ヲ有スルコトヲ承認シ帝國カ韓國ニ於テ必要ト認ムル指導保護及監理ノ措置ヲ執ルニ方リ之ヲ阻害シ又ハ之ニ干涉セサルヘキヲ約シタリ之ヨリ先キ同年八月十二日調印セラレタル日英同盟約款モ亦日本國ハ韓國ニ於テ政事上、軍事上及經濟上ノ卓絶ナル利益ヲ有スルヲ以テ大不列顛國ハ日本國カ該利益

ヲ擁護増進セムカ爲メ正當且必要ト認ムル指導監理及保護ノ措置ヲ韓國ニ於テ執ルノ權利ヲ承認スト規定シ乃チ一方ニ於テハ日英同盟約款ノ支持他方ニ於テハ日露講和條約ノ承認ニ依リ日韓兩國ノ關係ハ日露戰爭終結ト前後シテ大進捗ヲ來タシ韓國ニ對スル帝國ノ地位益々鞏固且明確ヲ加フルニ至レリ帝國政府ハ乃チ此新關係ニ基キ韓國ニ對スル保護指導ヲ完フシテ益々兩國ヲ結合スル利益共通ノ主義ヲ鞏固ナラシムコトヲ欲シ此目的ヲ以テ同年十一月十七日所謂日韓新協約ヲ締結シタリ同協約ハ前文及五箇條ヨリ成リ(一)外交權ノ收受(二)統監ノ駐劄(三)日韓兩國間現存條約及約束ノ效力繼續(四)韓國皇室ノ安寧及尊嚴維持ノ保證ヲ約セリ本協約ハ日露戰役中ニ於ケル議定書及協約ヲ享ケテ之ヲ大成シタルモノニシテ永ク日韓兩國關係ノ基礎タルヘキモノナリ此ニ於テ帝國政府ハ愈々在京城公使館ヲ撤廢シテ統監府ヲ置キ統監ヲ駐劄セシムルニ決シ同年十二月二十日統監府及理事廳官制ヲ公布シ翌明治三十九年二月一日各其ノ事務ヲ開始セリ統監府既ニ設置セラレ韓國ノ外交ハ舉ゲテ帝國政府ノ管理ニ歸シ之ヲ内ニシテハ施政ノ改善漸ク其ノ緒ニ就クト雖一朝ニシテ數百年ノ積弊ヲ一洗シ保護ノ實ヲ舉ケム

コト固ヨリ容易ニアラス加フルニ維新更始ノ際ニ當リ上下ノ人心動モスレハ其ノ嚮フ所ヲ誤リ各般ノ妨碍百出セリ偶々明治四十年夏ニ至リ海牙密使事件ノ起ルアリ統監ハ更ニ韓國政府代表者ト一ノ協約ヲ訂立シ日韓兩國ノ關係ヲ一層密邇セシムルノ必要ヲ認メ同七月二十四日兩國代表者ノ調印ヲ了セリ同協約ハ前文及七箇條ヨリ成リ先ツ前文ニ於テ兩國政府カ韓國ノ富強ヲ圖リ韓國民ノ幸福ヲ増進セムトスルノ目的ヲ有スルコトヲ宣明シ(一)韓國政府カ施政改善ニ關シ統監ノ指導ヲ受クルコト(二)法令制定及重要ナル行政上ノ處分ニ付豫メ統監ノ承認ヲ受クヘキコト(三)司法事務ト普通行政事務トノ區別サルヘキコト(四)高等官吏ノ任免ニ統監ノ同意ヲ要スルコト(五)統監ノ推薦ニ依リ日本人ヲ韓國政府ニ任用スルコト(六)統監ノ同意ヲクシテ外國人ヲ僱聘セサルコト(七)明治三十七年八月調印日韓協約第一條即チ財政顧問僱聘ノ廢止サルヘキコトヲ約ス此協約ハ明治三十八年ノ新協約ト互ニ相補ヒ特ニ韓國ノ内政改善ニ關シテハ既往三種ノ協約ニ規定スル所ニ比シ一層我保護權行使ノ範圍ヲ擴張セリ

明治四十二年七月十二日韓國ニ於ケル司法及監獄ノ事務ヲ帝國政府ニ委託

セシムルコトヲ約セリ其ノ覺書ハ前文及五箇條ヨリ成リ(一)司法及監獄事務ノ委託(二)韓國人ノ任用(三)韓國臣民ニ對シテハ協約又ハ法令ニ特別ノ規定アルモノノ外韓國法規ヲ適用スルコト(四)經費ハ帝國政府ノ負擔スルコトヲ定メタリ次テ十月統監府裁判所令司法廳官制及監獄官制ヲ公布シ十一月一日ヨリ之ヲ實施シ越エテ明治四十三年六月二十四日韓國ノ警察事務ヲ委託セシメ統監府警察官署官制ヲ公布シ七月一日ヨリ之ヲ實施シタリ蓋シ生命財產ノ保護ハ司法及警察ノ確實ニ遂行セララルルニ依テ始メテ其ノ完全ナルコトヲ得ヘケレハナリ

如斯統監府ヲ設置シ韓國ヲ帝國ノ保護ノ下ニ置キテ爾來四年有餘禍根ヲ杜絶シ平和ヲ確保センカ爲ニ其ノ施政ノ改善ニ努メ其ノ功果甚大ナルモノアリト雖尙韓國ノ現制ハ未タ治安ノ途ヲ完フスルニ足ラス到底之ニ對シテ一大革新ヲ加フルノ避クヘカラサルコト瞭然タルニ至リ帝國政府ハ韓國ヲ舉テ之ヲ帝國ニ併合シ以テ時勢ノ要求ニ應セント欲シ兩國全權委員會同協議ノ結果明治四十三年八月二十二日韓國併合ニ關スル條約ノ締結調印ヲ了レリ該條約ハ前文及八箇條ヨリ成リ(一)韓國皇帝陛下ハ韓國全部ノ統治權ヲ帝

國皇帝陛下ニ讓與セラルルコト(二)帝國皇帝陛下ハ之ヲ承諾セラルルコト(三)帝國皇帝陛下ハ韓國皇室ニ對シ相當ノ尊稱、威嚴及名譽ヲ享有セシメ且之レヲ保持スルニ十分ナル歳費ヲ供給セラルルコト(四)韓國皇族ノ名譽及待遇ノ享有竝ニ必要ナル資金ノ供與(五)勳功アル韓人ニ對スル榮爵ノ授與及恩金ノ附與(六)帝國政府ハ韓國ノ施設ヲ擔任シ韓人ノ身體及財産ニ對シ充分ナル保護ヲ與へ且其ノ福利ノ増進ヲ圖ルコト(七)韓人ヲ帝國官吏ニ登用スルコト(八)本條約ハ兩國皇帝陛下ノ裁可ヲ經タルモノニシテ公布ノ日ヨリ其效力ヲ發生スルコトヲ定ム此ノ條約竝ニ之ニ關聯スル各種ノ法規ハ八月二十九日之ヲ公布セラレ同時ニ帝國皇帝陛下ハ詔書ヲ發シテ韓國ノ現制ハ尙未タ治安ノ保持ヲ完ウスルニ足ラス疑懼ノ念常ニ國內ニ充溢シ民其ノ堵ニ安ンセス東洋ノ平和ヲ永遠ニ維持シ帝國ノ安全ヲ將來ニ保障センカ爲ニハ常ニ韓國カ其ノ禍亂ノ淵源タルニ顧ミ韓國ノ現制ニ革新ヲ加へ之ヲ帝國ニ併合スル實ニ止ムヲ得サルモノニシテ以テ公共ノ安寧ヲ維持シ民衆ノ福利ヲ増進スルコトヲ得ヘク之ニ對シテ韓國皇帝陛下及其ノ皇室各員ハ併合ノ後ト雖相當ノ優遇ヲ受クヘク乃前韓國皇帝ヲ冊シテ昌德宮李王、皇太子及將來ノ世嗣

ヲ王世子、太皇帝ヲ德壽宮李太王トシ其ノ儷匹ヲ王妃、太王妃又ハ王世子妃トシ又李瑯及李燾ヲ公トシ其ノ配匹ヲ公妃トシ總テ待ツニ皇族ノ禮ヲ以テシ殿下ノ敬稱ヲ用非シメ又韓國ノ民衆ハ帝國皇帝陛下ノ綏撫ノ下ニ立テテ其ノ康福ヲ増進スヘク今ハ先ツ朝鮮ニ於ケル舊刑諸般ノ罪囚中情狀ノ憫諒スヘキ者ニ對シテハ特ニ大赦ヲ行ヒ積年ノ逋租及今年ノ租稅ハ之ヲ減免セラレヘク又韓國ノ國號ヲ改メテ朝鮮トシ之ニ總督ヲ置キ皇帝陛下ノ命ヲ承ケテ陸海軍ヲ統率シ諸般ノ政務ヲ總轄セシメラルヘキコトヲ中外ニ宣示シ給ヒ又帝國政府ハ韓國トノ間ニ條約ヲ有シ又ハ韓國ニ於テ最惠國待遇ヲ享クヘキコトトナリ居リタル獨逸國、亞米利加合衆國、奧地利、洪牙利國、白耳義國、清國、丁抹國、佛蘭西國、大不列顛國、伊太利國及露西亞國ノ各政府ニ對シ(一)韓國ト列國トノ條約ハ當然無効ニ歸シ帝國ト列國トノ現行條約ハ其ノ適用シ得ル限リ朝鮮ニ適用セラルヘク從テ朝鮮ニ在留スル諸外國人ハ其ノ從來享有セル領事裁判權ヲ喪ヒ帝國法權ノ下ニ立ツヘキコト(二)從來ノ條約ニ關係ナク今後十年間朝鮮ヨリ外國ニ輸出シ又ハ外國ヨリ朝鮮ニ輸入スル貨物及朝鮮開港ニ入ル外國船舶ニ對シ現在ト同率ノ輸出入稅及噸稅ヲ課スヘキコトヲ

宣言シ又其ノ他修好諸外國ニ對シ韓國ヲ帝國ニ併合シ爾今帝國ト列國トノ
現行條約ハ其ノ適用シ得ル限り朝鮮ニ適用セラルヘキコトヲ宣言シタリ

八

詔書條約及法令

○詔書

朕東洋ノ平和ヲ永遠ニ維持シ帝國ノ安全ヲ將來ニ保障スルノ必要ナルヲ念ヒ又常ニ韓國カ禍亂ノ淵源タルニ顧ミ冀ニ朕ノ政府ヲシテ韓國政府ト協定セシメ韓國ヲ帝國ノ保護ノ下ニ置キ以テ禍源ヲ杜絶シ平和ヲ確保セムコトヲ期セリ

爾來時ヲ經ルコト四年有餘其ノ間朕ノ政府ハ銳意韓國施政ノ改善ニ努メ其ノ成績亦見ルヘキモノアリト雖韓國ノ現制ハ尙未ダ治安ノ保持ヲ完スルニ足ラス疑懼ノ念毎ニ國內ニ充溢シ民其ノ堵ニ安セス公共ノ安寧ヲ維持シ民衆ノ福利ヲ増進セムカ爲ニハ革新ヲ現制ニ加フルノ避ク可ラサルコト瞭然タルニ至レリ

朕ハ韓國皇帝陛下ト與ニ此ノ事態ニ鑑ミ韓國ヲ舉テ日本帝國ニ併合シ以テ時勢ノ要求ニ應スルノ已ムヲ得サルモノアルヲ念ヒ茲ニ永久ニ韓國ヲ帝國ニ併合スルコトトナセリ

韓國皇帝陛下及其ノ皇室各員ハ併合ノ後ト雖相當ノ優遇ヲ受クヘク民衆ハ

直接朕カ綏撫ノ下ニ立テ其ノ康福ヲ増進スヘク産業及貿易ハ治平ノ下ニ
 顯著ナル發達ヲ見ルニ至ルヘシ而シテ東洋ノ平和ハ之ニ依リテ愈々其ノ基
 礎ヲ鞏固ニスヘキハ朕ノ信シテ疑ハサル所ナリ
 朕ハ特ニ朝鮮總督ヲ置キ之ヲシテ朕ノ命ヲ承ケテ陸海軍ヲ統率シ諸般ノ政
 務ヲ總轄セシム百官有司克ク朕ノ意ヲ體シテ事ニ從ヒ施設ノ緩急其ノ宜キ
 ヲ得以テ衆庶ヲシテ永ク治平ノ慶ニ賴ラシムルコトヲ期セヨ

御名 御璽

明治四十三年八月二十九日

内閣總理大臣兼	侯爵	桂	太郎
陸軍大臣	子爵	寺内	正毅
外務大臣	伯爵	小村	壽太郎
海軍大臣	男爵	齋藤	實
内務大臣	法學博士	平田	東助

遞信大臣	男爵	後藤	新平
文部大臣兼		小松原	英太郎
農商務大臣			
司法大臣	子爵	岡部	長職

朕天壤無窮ノ丕基ヲ弘クシ國家非常ノ禮數ヲ備ヘムト欲シ前韓國皇帝ヲ册
 シテ王ト爲シ昌德宮李王ト稱シ嗣後此ノ隆錫ヲ世襲シテ以テ其ノ宗祀ヲ奉
 セシメ皇太子及將來ノ世嗣ヲ王世子トシ太皇帝ヲ太王ト爲シ德壽宮李太王
 ト稱シ各其ノ儷匹ヲ王妃太王妃又ハ王世子妃トシ竝ニ待ツニ皇族ノ禮ヲ以
 テシ特ニ殿下ノ敬稱ヲ用非シム世家率循ノ道ニ至リテハ朕ハ常ニ別ニ其ノ
 軌儀ヲ定メ李家ノ子孫ヲシテ奕葉之ニ賴リ福履ヲ増綏シ永ク休祉ヲ享ケシ
 ムヘシ茲ニ有衆ニ宣示シ用テ殊典ヲ昭ニス

御名 御璽

明治四十三年八月二十九日

宮内大臣 子爵 渡邊千秋

内閣總理大臣 侯爵 桂太郎

朕惟フニ李垺及李燾ハ李王ノ懿親ニシテ令問夙ニ彰ハレ權域ノ瞻望タリ宜ク殊遇ヲ加錫シ其ノ儀稱ヲ豐ニスヘシ茲ニ特ニ公ト爲シ其ノ配匹ヲ公妃トシ竝ニ待ツニ皇族ノ禮ヲ以テシ殿下ノ敬稱ヲ用非シメ子孫ヲシテ此ノ榮錫ヲ世襲シ永ク寵光ヲ享ケシム

御名 御璽

明治四十三年八月二十九日

宮内大臣 子爵 渡邊千秋

内閣總理大臣 侯爵 桂太郎

朕惟フニ統治ノ大權ニ由リ茲ニ始メテ治化ヲ朝鮮ニ施クハ朕カ蒼黎ヲ綏撫シ赤子ヲ體卹スルノ意ヲ昭示スルヨリ先ナルハナシ乃チ別ニ定ムル所ニ依リ朝鮮ニ於ケル舊刑諸般ノ罪囚中情狀ノ憫諒スヘキモノニ對シテ特ニ大赦ヲ行ヒ積年ノ逋租及今年ノ租稅ハ之ヲ減免シ以テ朕カ軫念スル所ヲ知悉セシム

御名 御璽

明治四十三年八月二十九日

内閣總理大臣兼 侯爵 桂太郎

陸軍大臣 子爵 寺內正毅

外務大臣 伯爵 小村壽太郎

海軍大臣 男爵 齋藤實

内務大臣 男爵 平田東助

遞信大臣 男爵 後藤新平

農文 小松原英太郎
商部 大臣兼
司法 大臣
子爵 岡部長 職

○韓國皇帝詔勅

朕東洋平和ヲ鞏固ナラシムル爲メ韓日兩國ノ親密ナル關係ヲ以テ彼我相合シ一家ヲナスハ互相萬世之幸福ヲ圖ル所以ナルヲ念ヒ茲ニ韓國ノ統治ヲ舉ケ此ヲ朕カ極メテ信賴スル大日本國皇帝陛下ニ讓與スルコトヲ決定シ仍テ必要ナル條章ヲ規定シ將來我皇室ノ永久安寧ト生民ノ福利ヲ保障スル爲メ內閣總理大臣李完用ヲ全權委員ニ任命シ大日本帝國統監寺內正毅ト會同シテ商議協定セシム諸臣亦朕カ意ノ確斷シタル所ヲ體シ奉行セヨ

御名 御璽

隆熙四年八月二十二日

韓國皇帝勅諭

皇帝若曰朕否德ニシテ艱大ナル業ヲ承ケ臨御以後今日ニ至ルマテ維新政令

ニ關シ亟圖シ備試シ用力未タ嘗テ至ラスト雖由來積弱痼ヲ成シ疲弊極處ニ到リ時日間ニ挽回ノ施措望無シ中夜憂慮善後ノ策茫然タリ此ニ任シ支離益甚シケレハ終局ニ收拾シ能ハサルニ底ラン寧ロ大任ヲ人ニ托シ完全ナル方法ト革新ナル功效ヲ奏セシムルニ如カス故ニ朕是ニ於テ瞿然内ニ省ミ廓然自ラ斷シ茲ニ韓國ノ統治權ヲ從前ヨリ親信依仰シタル隣國大日本皇帝陛下ニ讓與シ外東洋ノ平和ヲ鞏固ナラシメ内八域ノ民生ヲ保全ナラシメントス惟爾大小臣民ハ國勢ト時宜ヲ深察シ煩擾スルナク各其業ニ安ンシ日本帝國ノ文明ノ新政ニ服從シ幸福ヲ共受セヨ朕カ今日ノ此舉ハ爾有衆ヲ忘レタルニアラス豈ヲ爾有衆ヲ救活セントスル至意ニ出ツ爾臣民等ハ朕ノ此意ヲ克體セヨ

隆熙四年八月二十九日

御璽

○皇室令

朕惟フニ李家ノ懿親及其ノ邦家ニ大勞アリタル者ハ宜シク之ヲ優列ニ陞シ敍シテ朝鮮貴族ト爲シ用テ寵光ヲ示スヘシ茲ニ其ノ舊德前功ヲ秩シ世爵ノ典ヲ定メテ朝鮮貴族令トシ之ヲ裁可シ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年八月二十九日

宮内大臣 子爵渡邊千秋

皇室令第十四號

朝鮮貴族令

第一條 本令ニ依リ爵ヲ授ケラレ又ハ爵ヲ襲キタル者ヲ朝鮮貴族トス

有爵者ノ婦ハ朝鮮貴族ノ族稱ヲ享ク

第二條 爵ハ李王ノ現在ノ血族ニシテ皇族ノ禮遇ヲ享ケサル者及門地又ハ功勞アリタル朝鮮人ニ之ヲ授ク

第三條 爵ハ公侯伯子男ノ五等トス

第四條 爵ヲ授クルハ勅旨ヲ以テシ宮内大臣之ヲ奉行ス

第五條 有爵者ハ其ノ爵ニ應シ華族令ニ依ル有爵者ト同一ノ禮遇ヲ享ク

第六條 有爵者ノ婦ハ其ノ夫ノ爵ニ相當スル禮遇及名稱ヲ享ク

有爵者ノ寡婦其ノ家ニ在ルトキハ特ニ貴族ノ族稱ヲ保有セシメ從前ノ禮遇及名稱ヲ享ケシム

第七條 有爵者ノ家族ニシテ左ニ掲ケタル者ハ華族ト同一ノ禮遇及貴族ノ族稱ヲ享ク

一 曾祖父祖父父

二 爵ヲ襲クコトヲ得ヘキ相續人及其ノ嫡長男子嫡出ノ男子ナキトキハ其ノ庶長男子

三 前二號ニ掲ケタル者ノ配偶者

第八條 有爵者又ハ前二條ノ禮遇ヲ享クヘキ者身體若ハ精神ニ重患アリ又ハ貴族ノ體面ニ關スル事故アルトキハ其ノ重患又ハ事故ノ止ムマテ禮遇ヲ享クルコトヲ得ス

前項ノ重患又ハ事故ノ有無ハ宮内高等官中ヨリ勅命シタル審査委員ヲシテ審査セシメタル後宮内大臣ノ上奏ニ依リ之ヲ勅裁ス

第九條 有爵者ハ家範ヲ定ムルコトヲ得

家範ハ宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ之ヲ廢止變更スルトキ亦同シ

有爵者二十年未滿ナルトキ又ハ前條ノ場合ニ該當スル者ナルトキハ家範ヲ定メ又ハ之ヲ廢止變更スルコトヲ得ス

第十條 爵ハ家ノ相續人タル男子ヲシテ之ヲ襲カシム

第十一條 爵ヲ襲クコトヲ得ヘキ相續人ハ相續開始ノ時ヨリ六箇月内ニ宮内大臣ニ相續ノ届出ヲ爲スヘシ

前項ノ届出アリタルトキハ宮内大臣ハ勅許ヲ經テ襲爵ノ辭令書ヲ交付ス

第十二條 襲爵ハ相續開始ノ時ヨリ其ノ效力ヲ生ス

第十三條 左ノ場合ニ於テハ相續人ハ襲爵ノ特權ヲ失フ

一 第十一條第一項ノ期間内ニ相續ノ届出ヲ爲ササルトキ
二 第十六條第二項又ハ第十八條ノ規定ニ依リ貴族ノ族稱ヲ除カレタルトキ

第十四條 相續人忠順ヲ缺クノ行爲アリタルトキハ襲爵ヲ勅許セララルコトナシ

第八條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十五條 有爵者及第六條又ハ第七條ノ禮遇ヲ享クヘキ者ノ身分ニ關シ監督上必要ノ事項ハ宮内大臣之ヲ管掌ス

第十六條 有爵者國籍ヲ喪失シタルトキ又ハ禁錮若ハ禁獄以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケ其ノ裁判確定シタルトキハ其ノ爵ヲ失フ

第六條又ハ第七條ノ禮遇ヲ享クヘキ者前項ノ場合ニ該當スルトキハ貴族ノ族稱ヲ除キ又ハ禮遇ヲ禁止ス

第十七條 有爵者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ爵ヲ返上セシメ又ハ禮遇ヲ停止若ハ禁止ス

- 一 貴族ノ體面ヲ汚辱スル失行アル者
 - 二 貴族ノ品位ヲ保ツコト能ハサル者
 - 三 忠順ヲ缺クノ行爲アル者
 - 四 宮内大臣ノ命令又ハ家範ニ違反シ情狀重キ者
- 第十八條 第六條又ハ第七條ノ禮遇ヲ享クヘキ者前條ノ場合ニ該當スルトキハ貴族ノ族稱ヲ除キ又ハ禮遇ヲ停止若ハ禁止ス
- 第十九條 有爵者禮遇ノ停止又ハ禁止中ニ在ルトキハ第六條第一項及第七條ノ禮遇ヲ享クヘキ者モ共ニ其ノ禮遇ヲ享クルコトヲ得ス
- 第二十條 有爵者其ノ品位ヲ保ツコト能ハサルトキハ宮内大臣ヲ經テ爵ノ返上ヲ請願スルコトヲ得
- 第二十一條 第十六條第二項第十七條及第十八條ノ處分ハ勅裁ヲ經テ宮内大臣之ヲ行フ禮遇ノ停止ヲ解除スルトキ亦同シ
- 第八條第二項ノ規定ハ前項ノ處分及解除ニ之ヲ準用ス
- 禮遇ノ禁止ヲ解除スルハ特旨ニ由ル
- 第二十二條 審査委員ニ關スル規程ハ宮内大臣勅裁ヲ經テ之ヲ定ム

朕朝鮮ニ在住スル貴族ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年八月二十九日

宮内大臣 子爵 渡邊千秋

內閣總理大臣 侯爵 桂 太郎

皇室令第十五號

- 第一條 朝鮮貴族令第八條第十四條及第二十一條ノ場合ニ於テハ朝鮮ニ在住スル貴族ニ限リ當分ノ内朝鮮總督ニ於テ審査委員ヲシテ審査セシメタル後之ヲ宮内大臣ニ移牒スヘシ
- 前項ノ審査委員ハ朝鮮總督府高等官ノ内ヨリ朝鮮總督之ヲ命ス
- 審査委員ニ關スル規程ハ朝鮮總督宮内大臣ニ協議シテ之ヲ定ム
- 第二條 朝鮮貴族令第九條第二項第十一條第一項及第二十條ノ規定ニ依リ届出認許ノ申請又ハ請願ヲ爲スニハ朝鮮ニ在住スル貴族ニ限リ當分ノ内朝鮮總督ヲ經山スヘシ
- 第三條 朝鮮貴族令第十五條ノ規定ニ依リ朝鮮ニ在住スル貴族ノ監督上必要ノ事項ハ當分ノ内朝鮮總督之ヲ管掌ス但シ主要ノ事項ニ付テハ宮内大臣ニ協議スヘシ
- 第四條 朝鮮ニ在住スル貴族朝鮮總督ノ命令ニ違反シ情狀重キトキハ朝鮮貴族令第十七條ヲ適

用ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕朝鮮貴族ノ敍位ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年八月二十九日

宮内大臣 子爵渡邊千秋

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎

皇室令第十六號

敍位條例ハ朝鮮貴族ノ敍位ニ關シ之ヲ準用ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕前韓國宮内府職員ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年八月二十九日

宮内大臣 子爵渡邊千秋

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎

皇室令第二十號

前韓國宮内府職員ニシテ朝鮮總督ニ於テ殘務取扱ヲ命シタル者ハ當分ノ内從前ノ官職ノ區別ニ從ヒ王族及公族ニ關スル事務ヲ掌理ス

朝鮮在住ノ王族及公族ニ附屬スル前項ノ職員ハ朝鮮總督之ヲ監督ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○條約

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經タル韓國併合ニ關スル條約ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年八月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎
外務大臣 伯爵小村壽太郎

條約第四號

日本國皇帝陛下及韓國皇帝陛下ハ兩國間ノ特殊ニシテ親密ナル關係ヲ願ヒ相互ノ幸福ヲ増進シ東洋ノ平和ヲ永久ニ確保セムコトヲ欲シ此ノ目的ヲ達セムカ爲ニハ韓國ヲ日本帝國ニ併合スルニ如カサルコトヲ確信シ茲ニ兩國間ニ併合條約ヲ締結スルコトニ決シ之カ爲日本國皇帝陛下ハ統監子爵寺内

正毅ヲ韓國皇帝陛下ハ内閣總理大臣李完用ヲ各其ノ全權委員ニ任命セリ因
テ右全權委員ハ會同協議ノ上左ノ諸條ヲ協定セリ

第一條

韓國皇帝陛下ハ韓國全部ニ關スル一切ノ統治權ヲ完全且永久ニ日本國皇帝
陛下ニ讓與ス

第二條

日本國皇帝陛下ハ前條ニ掲ケタル讓與ヲ受諾シ且全然韓國ヲ日本帝國ニ併
合スルコトヲ承諾ス

第三條

日本國皇帝陛下ハ韓國皇帝陛下太皇帝陛下皇太子殿下其ノ后妃及後裔ヲ
シテ各其ノ地位ニ應シ相當ナル尊稱威嚴及名譽ヲ享有セシメ且之ヲ保持ス
ルニ十分ナル歳費ヲ供給スヘキコトヲ約ス

第四條

日本國皇帝陛下ハ前條以外ノ韓國皇族及其ノ後裔ニ對シ各相當ノ名譽及待
遇ヲ享有セシメ且之ヲ維持スルニ必要ナル資金ヲ供與スルコトヲ約ス

第五條

日本國皇帝陛下ハ勳功アル韓人ニシテ特ニ表彰ヲ爲スヲ適當ナリト認メタ
ル者ニ對シ榮爵ヲ授ケ且恩金ヲ與フヘシ

第六條

日本國政府ハ前記併合ノ結果トシテ全然韓國ノ施設ヲ擔任シ同地ニ施行ス
ル法規ヲ遵守スル韓人ノ身體及財産ニ對シ十分ナル保護ヲ與ヘ且其ノ福利
ノ増進ヲ圖ルヘシ

第七條

日本國政府ハ誠意忠實ニ新制度ヲ尊重スル韓人ニシテ相當ノ資格アル者ヲ
事情ノ許ス限り韓國ニ於ケル帝國官吏ニ登用スヘシ

第八條

本條約ハ日本國皇帝陛下及韓國皇帝陛下ノ裁可ヲ經タルモノニシテ公布ノ
日ヨリ之ヲ施行ス

右證據トシテ兩全權委員ハ本條約ニ記名調印スルモノナリ

明治四十三年八月二十二日

統 監 子爵寺内正毅

隆熙四年八月二十二日

内閣總理大臣 李完用

○勅令

朕韓國ノ國號ヲ改メ朝鮮ト稱スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年八月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎

勅令第三百十八號

韓國ノ國號ハ之ヲ改メ爾今朝鮮ト稱ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ朝鮮總督府設置ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年八月二十九日

内閣總理大臣 侯爵 桂 太郎

勅令第三百十九號

朝鮮ニ朝鮮總督府ヲ置ク

朝鮮總督府ニ朝鮮總督ヲ置キ委任ノ範圍内ニ於テ陸海軍ヲ統率シ一切ノ政務ヲ統轄セシム
統監府及其ノ所屬官署ハ當分ノ内之ヲ存置シ朝鮮總督ノ職務ハ統監ヲシテ之ヲ行ハシム
從來韓國政府ニ屬シタル官廳ハ内閣及表勳院ヲ除クノ外朝鮮總督府所屬官署ト看做シ當分ノ内
之ヲ存置ス

前項ノ官署ニ在勤スル官吏ニ關シテハ舊韓國政府ニ在勤中ト同一ノ取扱ヲ爲ス但シ舊韓國法規
ニ依ル親任官ハ親任官ノ待遇勅任官ハ勅任官ノ待遇奏任官ハ奏任官ノ待遇判任官ハ判任官ノ待
遇ヲ受クルモノトシ尙在官ノ僱聘用ヲ許可セラレタル者ニ在リテハ明治三十七年勅令第九十
五號ノ適用ヲ受クルモノト看做ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕統監府特許局官制廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年八月二十九日

内閣總理大臣 侯爵 桂 太郎

勅令第三百二十一號

統監府特許局官制ハ之ヲ廢止ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕舊韓國在外指定學校職員ノ名稱待遇及任用解職ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ
之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年八月二十九日

內閣總理大臣 侯爵桂 太郎

勅令第三百二十二號

舊韓國ニ於テ在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料法ニ依リ指定セラレタル學校ノ職員ノ名稱待遇及任用解職ニ關シテハ當分ノ内明治三十八年勅令第二百三十號ヲ準用ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕舊韓國軍人ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年八月二十九日

內閣總理大臣 侯爵桂 太郎
陸軍大臣 子爵寺內正毅

勅令第三百二十三號

朝鮮總督府設置ノ際ニ於ケル韓國軍人ノ取扱ハ陸軍軍人ニ準シ其ノ官等階級任免分限及給與等ニ關シテハ當分ノ内從前ノ規定ニ依ル

前項ノ軍人中現職ニ在ル者ハ駐劄軍司令部附又ハ駐劄憲兵隊司令部附トス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條ニ依リ朝鮮ニ施行スヘキ法令ニ關スル件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年八月二十九日

內閣總理大臣兼 侯爵桂 太郎
陸軍大臣 子爵寺內正毅
外務大臣 伯爵小村壽太郎

海軍大臣	男爵 齋藤 實
內務大臣	男爵 博士 平田 東助
遞信大臣	男爵 後藤 新平
農商務大臣兼 司法大臣	小松原英太郎 子爵 岡部長 職

勅令第三百二十四號

第一條 朝鮮ニ於テハ法律ヲ要スル事項ハ朝鮮總督ノ命令ヲ以テ之ヲ規定スルコトヲ得

第二條 前條ノ命令ハ內閣總理大臣ヲ經テ勅裁ヲ請フヘシ

第三條 臨時緊急ヲ要スル場合ニ於テ朝鮮總督ハ直ニ第一條ノ命令ヲ發スルコトヲ得

前項ノ命令ハ發布後直ニ勅裁ヲ請フヘシ若勅裁ヲ得サルトキハ朝鮮總督ハ直ニ其ノ命令ノ將來ニ向テ效力ナキコトヲ公布スヘシ

第四條 法律ノ全部又ハ一部ヲ朝鮮ニ施行スルヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 第一條ノ命令ハ第四條ニ依リ朝鮮ニ施行シタル法律及特ニ朝鮮ニ施行スル目的ヲ以テ制定シタル法律及勅令ニ違背スルコトヲ得ス

第六條 第一條ノ命令ハ制令ト稱ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕茲ニ朝鮮ヲ統治スルノ始ニ方リ惠澤ヲ施サムカ爲左ノ條項ニ依リ特ニ大赦ヲ行ハシム

御名 御璽

明治四十三年八月二十九日

內閣總理大臣兼 大藏大臣	侯爵 桂 太郎
陸軍大臣	子爵 寺內 正毅
外務大臣	伯爵 小村 壽太郎
海軍大臣	男爵 齋藤 實
內務大臣	男爵 博士 平田 東助
遞信大臣	男爵 後藤 新平
農商務大臣兼 司法大臣	小松原英太郎

司法大臣 子爵岡部長 職

勅令第三百二十五號

第一條 本令公布前ニ於テ左ニ記載シタル舊韓國法令ノ罪ヲ犯シタル者ハ之ヲ赦免ス

一 刑法大全第九十一條ノ罪及同罪ニ關スル第九十二條及第九十三條ノ罪並第九十四條ノ罪

二 刑法大全第九十五條ノ罪及同條ニ該當スル犯人ノ情ヲ知リテ藏匿シ又ハ隱避セシメタル罪

三 刑法大全第九十六條乃至第九十九條ノ罪

四 刑法大全第二百條ノ罪

五 刑法大全第二百一條ノ罪

六 刑法大全第二百四十三條乃至第二百五十二條ノ罪

七 刑法大全第二百六十條ノ罪

八 刑法大全第二百六十二條及第二百六十四條ノ罪

九 刑法大全第二百六十五條ノ罪

十 刑法大全第二百六十六條ノ罪

十一 刑法大全第二百七十五條及第二百八十條ノ罪但シ人ヲ殺シタル罪ヲ除ク

十二 刑法大全第二百八十九條及第二百九十二條ノ罪

十三 刑法大全第二百九十三條、第二百九十四條及第二百九十六條ノ罪

十四 刑法大全第三百三條及第三百四條ノ罪但シ第三百四條但書ノ罪ヲ除ク

十五 刑法大全第三百六條ノ罪

十六 刑法大全第三百十二條ノ罪

十七 刑法大全第三百十八條ノ罪

十八 刑法大全第三百二十條乃至第三百二十七條ノ罪但シ第三百二十二條但書及第三百二十七條第五號ノ罪ヲ除ク

十九 刑法大全第三百三十四條乃至第三百三十七條ノ罪但シ死ニ致シタル罪ヲ除ク

二十 刑法大全第三百四十六條ノ罪

二十一 刑法大全第三百五十三條乃至第三百六十一條ノ罪但シ因リテ所犯アリタル者ニシテ其ノ所犯本令ニ依リ赦免スヘカラサル罪ニ該當スルトキハ之ヲ除ク

二十二 刑法大全第三百六十七條乃至第三百七十條ノ罪

二十三 刑法大全第三百八十二條、第三百八十三條及第三百八十六條ノ罪

二十四 刑法大全第四百條乃至第四百三條ノ罪

二十五 刑法大全第四百四條乃至第四百七條ノ罪

二十六 刑法大全第四百八條及第四百九條ノ罪

- 二十七 刑法大全第四百十三條乃至第四百十六條ノ罪
- 二十八 刑法大全第四百二十條乃至第四百二十八條ノ罪
- 二十九 刑法大全第四百二十九條乃至第四百三十二條及第四百三十四條乃至第四百三十六條ノ罪
- 三十 刑法大全第四百三十七條ノ罪
- 三十一 刑法大全第四百三十九條乃至第四百四十二條ノ罪但シ因リテ所犯アリタル者ニシテ其ノ所犯本令ニ依リ赦免スヘカラサル罪ニ該當スルトキハ之ヲ除ク
- 三十二 刑法大全第四百四十八條乃至第四百五十四條、第四百五十六條及第四百五十七條ノ罪但シ人ヲ殺シタル罪ヲ除ク
- 三十三 刑法大全第四百五十八條乃至第四百六十條、第四百六十三條及第四百六十四條ノ罪
- 三十四 刑法大全第四百六十六條、第四百六十七條及第四百六十九條乃至第四百七十二條ノ罪
- 三十五 刑法大全第四百八十三條ノ罪
- 三十六 刑法大全第四百八十四條ノ罪
- 三十七 刑法大全第四百九十三條ノ罪
- 三十八 刑法大全第四百九十五條及第四百九十六條ノ罪
- 三十九 刑法大全第四百九十八條第二號及第四百九十九條第六號乃至第八號ノ罪
- 四十 刑法大全第五百十一條及第五百十五條ノ罪

- 四十一 刑法大全第五百二十條及第五百二十一條ノ罪
- 四十二 刑法大全第五百三十條乃至第五百三十二條ノ罪
- 四十三 刑法大全第五百三十三條ノ罪
- 四十四 刑法大全第五百三十四條及第五百四十條ノ罪
- 四十五 刑法大全第五百四十三條ノ罪
- 四十六 刑法大全第五百五十七條及第五百五十八條ノ罪
- 四十七 刑法大全第五百五十九條乃至第五百七十六條ノ罪
- 四十八 刑法大全第六百二十三條及第六百二十四條ノ罪
- 四十九 刑法大全第六百三十一條乃至第六百三十五條ノ罪
- 五十 刑法大全第六百四十四條乃至第六百四十六條ノ罪
- 五十一 刑法大全第六百四十九條及第六百五十條ノ罪
- 五十二 刑法大全第六百五十二條乃至第六百五十六條ノ罪
- 五十三 刑法大全第六百六十條乃至第六百六十三條ノ罪
- 五十四 刑法大全第六百六十七條及第六百六十九條ノ罪
- 五十五 刑法大全第六百七十條及第六百七十一條ノ罪
- 五十六 刑法大全第六百七十二條及第六百七十三條ノ罪
- 五十七 刑法大全第六百七十四條ノ罪

- 五十八 刑法大全第六百七十六條ノ罪
- 五十九 刑法大全第六百七十七條ノ罪
- 六十 刑法大全第六百七十八條ノ罪
- 六十一 陸軍法律ノ罪但シ第二百七十八條、第二百八十一條、第二百八十九條、第二百九十條及第三百八條ノ罪並第二百七十九條、第二百九十一條、第二百九十二條、第二百九十六條、第二百九十七條及第三百九條中死刑ニ該當スル罪ヲ除ク
- 六十二 會計法違犯ノ罪
- 六十三 開國五百四年法律第十五號違犯ノ罪
- 六十四 電報事項犯罪人處斷例ノ罪
- 六十五 郵便事項犯罪人處斷例ノ罪
- 六十六 典當舖規則違犯ノ罪
- 六十七 鐵道事項犯罪人處斷例ノ罪但シ第三條ノ罪及同例ノ罪ヲ犯スニ因リ人ヲ死ニ致シタル罪ヲ除ク
- 六十八 度量衡法及度量衡法施行規則違犯ノ罪
- 六十九 新聞紙法違犯ノ罪
- 七十 保安法違犯ノ罪
- 七十一 銃砲及火藥類團束法違犯ノ罪

- 七十二 森林法違犯ノ罪但シ第十五條ノ罪ヲ除ク
- 七十三 人蔘稅法違犯ノ罪
- 七十四 紅蔘專賣法違犯ノ罪
- 七十五 漁業法及漁業法施行細則違犯ノ罪
- 七十六 家屋稅法違犯ノ罪
- 七十七 酒稅法違犯ノ罪
- 七十八 煙草稅法違犯ノ罪
- 七十九 國稅徵收法違犯ノ罪
- 八十 出版法違犯ノ罪
- 八十一 民籍法違犯ノ罪
- 八十二 漁業稅法違犯ノ罪
- 八十三 屠獸規則違犯ノ罪
- 八十四 船舶法及船舶法施行細則違犯ノ罪
- 八十五 船舶檢査法及船舶檢査法施行細則違犯ノ罪
- 八十六 檢疫規則違犯ノ罪
- 八十七 銀行條例違犯ノ罪
- 八十八 農工銀行條例違犯ノ罪

- 八十九 鹽稅規程違犯ノ罪
- 九十 寄附金募集取締規則違犯ノ罪
- 九十一 種痘規則違犯ノ罪
- 九十二 檢疫停船規則違犯ノ罪
- 九十三 教科用圖書檢定規程違犯ノ罪
- 九十四 痘苗賣下規則違犯ノ罪
- 九十五 水道給水規則違犯ノ罪
- 九十六 船準牌規則違犯ノ罪
- 九十七 警務廳令警視廳令及各道令違犯ノ罪
- 九十八 前記法令ヲ比附援引シテ處罰シタル罪及處罰スヘキ罪
- 第二條 前條ノ外舊韓國隆熙二年法律第十六號及第十九號施行前同法律ヲ以テ廢止又ハ削除シタル法律ノ條項ニ依リ又ハ其ノ條項ヲ比附援引シテ處斷セラレタル者ハ之ヲ赦免ス
- 第三條 二罪以上併發例ニ依リ處斷セラレタル者最重ノ罪前二條ニ該當スルトキハ他ノ罪亦之ヲ赦免ス
- 第四條 赦免ヲ得ルト雖既ニ徵收シタル罰金、科料、收贖金、追徵金及沒入シタル物件ハ之ヲ還付セ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第七十條ニ依ル財政上必要處分ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年八月二十九日

內閣總理大臣兼 大藏大臣	陸軍大臣	外務大臣	海軍大臣	內務大臣	遞信大臣	文部大臣兼 農商務大臣	司法大臣
侯爵 桂 太郎	子爵 寺內 正毅	伯爵 小村 壽太郎	男爵 齋 藤 實	男爵 平 田 東助	男爵 後 藤 新平	子爵 岡 部 長 職	子爵 岡 部 長 職

勅令第三百二十六號

舊韓國政府ニ屬スル歳入歳出ノ豫算ハ當分ノ内從前ノ儘之ヲ襲用ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第七十條ニ依ル財政上必要處分ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年八月二十九日

内閣總理大臣兼	侯爵	桂	太郎
陸軍大臣	子爵	寺内	正毅
外務大臣	伯爵	小村	壽太郎
海軍大臣	男爵	齋藤	實
内務大臣	法學博士 男爵	平田	東助

遞信大臣	男爵	後藤	新平
文部大臣兼		小松原	英太郎
農商務大臣兼		岡部	長職
司法大臣	子爵	岡部	長職

勅令第三百二十七號

朝鮮ニ於ケル臨時恩賜ニ充ツル爲政府ハ三千萬圓ヲ限リ五分利附國債ヲ發行スルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第七十條ニ依ル財政上必要處分ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年八月二十九日

内閣總理大臣兼	侯爵	桂	太郎
大藏大臣			

陸軍大臣	子爵	寺内正毅
外務大臣	伯爵	小村壽太郎
海軍大臣	男爵	齋藤實
内務大臣	男爵 <small>法學博士</small>	平田東助
遞信大臣	男爵	後藤新平
農商務大臣 <small>兼</small>		小松原英太郎
司法大臣	子爵	岡部長職

勅令第三百二十八號

從來大藏省預金部ニ對シ韓國政府ノ負擔スル債務ハ別ニ規定ヲ設クル迄一般會計ノ負擔ニ屬セシム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條ニ依リ朝鮮ニ於ケル臨時恩賜ニ關スル件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年八月二十九日

内閣總理大臣 <small>兼</small>	侯爵	桂太郎
陸軍大臣	子爵	寺内正毅
外務大臣	伯爵	小村壽太郎
海軍大臣	男爵	齋藤實
内務大臣	男爵 <small>法學博士</small>	平田東助
遞信大臣	男爵	後藤新平
農商務大臣 <small>兼</small>		小松原英太郎
司法大臣	子爵	岡部長職

勅令第三百二十九號

第一條 朝鮮ニ於ケル臨時恩賜ハ明治四十三年勅令第三百二十七號ニ依リ發行シタル國債證券ヲ以テ下付ス

前項ノ國債證券ハ記名式トス但シ政府ニ於テ特別ノ事由アリト認ムルトキハ之ヲ無記名式ト

爲スコトヲ得

第二條 前條ノ記名國債證券ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ讓渡又ハ質入スルコトヲ得ス

第三條 元金償還利子仕拂證券及登錄ニ關スル取扱手續ハ大藏大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條ニ依リ舊韓國政府ニ屬シタル歲入歲出ノ豫算ニ關スル會計ノ經理及舊韓國政府ニ屬シタル財産ノ管理ニ關スル件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年八月二十九日

内閣總理大臣兼 大藏大臣	侯爵 桂 太郎
陸軍大臣	子爵 寺内 正毅
外務大臣	伯爵 小村 壽太郎

海軍大臣	男爵 齋 藤 實
內務大臣	法學博士 男爵 平 田 東 助
逓信大臣	男爵 後 藤 新 平
文部大臣兼 農商務大臣	小松原英太郎
司法大臣	子爵 岡 部 長 職

勅令第三百三十號

明治四十三年勅令第三百二十六號ニ依ル豫算ニ關スル會計ノ經理及舊韓國政府ニ屬シタル財産ノ管理ニ關シテハ當分ノ内從前ノ例ニ依ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條ニ依リ朝鮮ヨリ移入スル貨物ノ移入稅等ニ關スル件ヲ裁可シ之ヲ公布ヒシム

御名 御璽

明治四十三年八月二十九日

五〇

内閣總理大臣兼	陸軍大臣	外務大臣	海軍大臣	内務大臣	遞信大臣	農商務大臣	司法大臣
侯爵 桂 太郎	子爵 寺内 正毅	伯爵 小村 壽太郎	男爵 齋 藤 實	法學博士 男爵 平 田 東助	男爵 後 藤 新 平	小松原英太郎	子爵 岡 部 長 職

勅令第三百三十一號

第一條 朝鮮ヨリ内地臺灣及樺太ニ貨物ヲ移入スルトキハ輸入税ト同率ノ移入税ヲ課シ朝鮮ヨリ入港スル船舶ニハ噸税ヲ課ス

第二條 移入税ニ關シテハ關稅法、關稅定率法、保稅倉庫法及稅關假置場法ヲ噸税ニ關シテハ噸税法ヲ準用ス

第三條 朝鮮ヨリ移入スル貨物中外國ヨリ輸入スル場合ニ於テ内國稅ヲ課スヘキモノアルトキ

ハ外國ヨリ輸入スルモノニ準シ内國稅ヲ課ス

第四條 外國ニ輸出スル貨物ニ關シ内國稅ヲ免除若ハ下戻シ又ハ交付金ヲ下付スルコトヲ定メタル規定ハ之ヲ朝鮮ニ移出スル貨物ニ準用シ外國ヨリ輸入シタル貨物ニ關シ輸入税ヲ下戻スヘキコトヲ定メタル規定ハ之ヲ本令ニ依リ移入税ヲ課セラレタル貨物ニ準用ス

第五條 内國稅法中同法ヲ施行セサル地ヨリ同法施行地ニ貨物ヲ移入スルコトヲ禁止シタル規定ハ朝鮮ヨリ移入スル貨物ニ之ヲ適用セス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕内地、臺灣及樺太ト朝鮮トノ間ニ通航スル船舶ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

明治四十三年八月二十九日

内閣總理大臣兼	侯爵 桂 太郎
遞信大臣	男爵 後 藤 新 平

五二

勅令第三百三十二號

内地、臺灣及樺太ト朝鮮トノ間ニ通航スル船舶ハ開港ニ由リ出入スヘシ
前項船舶ノ開港出入ニ關スル手續ハ外國貿易船ノ例ニ依ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條ニ依リ
内地、臺灣及樺太ト朝鮮トノ間ニ出入スル船舶及物件ノ檢疫及取締ニ關スル
件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年八月二十九日

内閣總理大臣兼 陸軍大臣	侯爵 桂 太郎
陸軍大臣	子爵 寺内正毅
外務大臣	伯爵 小村壽太郎

海軍大臣	男爵 齋藤 實
内務大臣	法學博士 男爵 平田東助
遞信大臣	男爵 後藤新平
文部大臣兼 農商務大臣	小松原英太郎
司法大臣	子爵 岡部長職

勅令第三百三十三號

内地、臺灣及樺太ト朝鮮トノ間ニ出入スル船舶及物件ノ檢疫及取締ニ關シテハ別ニ法令ヲ以テ規
定スル迄従前ノ例ニ依ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕韓國勳章及記章ノ佩用ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年八月二十九日

勅令第三百三十四號

舊韓國ノ勳章及記章ハ當分ノ内之ヲ佩用スルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

內閣總理大臣 侯爵桂 太郎

五四

朕特許法等ヲ朝鮮ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年八月二十九日

內閣總理大臣 侯爵桂 太郎

勅令第三百三十五號

左ニ掲クル法律ハ之ヲ朝鮮ニ施行ス

一 特許法

二 意匠法

三 實用新案法

四 商標法

五 著作權法

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條ニ依リ特許法、意匠法及實用新案法ヲ朝鮮ニ施行スルコトニ關スル件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年八月二十九日

內閣總理大臣兼 侯爵桂 太郎

陸軍大臣 子爵寺內 正毅

外務大臣 伯爵小村 壽太郎

五五

海軍大臣	男爵 齋藤 實
內務大臣	男爵 平田 東助
遞信大臣	男爵 後藤 新平
農商務大臣	小松原英太郎
文部大臣	
司法大臣	子爵 岡部 長職

勅令第三百三十六號

第一條 本令施行前特許法、意匠法又ハ實用新案法ニ依リ發生シタル特許權、意匠權又ハ實用新案權ノ效力ハ朝鮮ニ於テ同一ノ事項ニ付特許權、意匠權又ハ實用新案權ヲ有スル者アル場合ニ於テハ朝鮮ニ及ハサルモノトス

第二條 韓國特許令、韓國意匠令又ハ韓國實用新案令ニ依リ發生シタル特許權、意匠權又ハ實用新案權ハ特許法、意匠法又ハ實用新案法ニ依リ發生シタルモノト看做ス

前項ノ特許權、意匠權又ハ實用新案權ノ效力ハ本令施行前同一ノ事項ニ付特許法、意匠法又ハ實用新案法ニ依リ發生シタル特許權、意匠權又ハ實用新案權ヲ有スル者アル場合ニ於テハ朝鮮以外ニ及ハサルモノトス

第三條 本令施行ノ際同一人ニシテ同一發明ニ付特許法及韓國特許令ニ依リ發生シタル特許權ヲ有スルトキハ其ノ存續期間ノ短キモノハ消滅スルモノトス

第四條 特許法ニ依リ發生シタル特許權ノ效力ハ朝鮮ニ於テ第二條第一項ノ規定ニ依ル特許權ノ效力ハ朝鮮以外ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ及ハス

- 一 本令施行ノ際現ニ其ノ發明實施ノ事業ヲ爲シ若ハ設備ヲ有スル者又ハ其ノ承繼人ノ特許發明ノ實施

二 本令施行ノ際現存スル物及前號ニ依リ製作シタル物

第五條 韓國特許令ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ特許法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第六條 前三條ノ規定ハ意匠又ハ實用新案ニ關シ之ヲ準用ス

第七條 韓國特許令、韓國意匠令及韓國實用新案令ハ之ヲ廢止ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條ニ依リ商標法ヲ朝鮮ニ施行スルコトニ關スル件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

明治四十三年八月二十九日

大内閣總理大臣兼	陸軍大臣	外務大臣	海軍大臣	內務大臣	遞信大臣	農商務大臣兼	司法大臣
侯爵桂太郎	子爵寺內正毅	伯爵小村壽太郎	男爵齋藤實	男爵平田東助	男爵後藤新平	小松原英太郎	子爵岡部長職

勅令第三百三十七號

第一條 本令施行ノ際同一人ニシテ同一商品ニ使用スヘキ類似商標ニ付商標法及韓國商標令ニ依リ發生シタル商標權ヲ有スル場合ニ於テハ其ノ商標ハ聯合商標トス

第二條 商標法ニ依リ發生シタル商標權ハ朝鮮ニ於テ韓國商標令ニ依リ發生シタル商標權ハ朝鮮以外ニ於テ本令施行後六月間ハ其ノ商標ト同一又ハ類似ノ商標ヲ使用シタル商品ヲ交付若ハ販賣シ又ハ交付若ハ販賣ノ目的ヲ以テ所持スル者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三條 商標カ商標法第二條第四號又ハ第五號ニ該當スル場合ニ於テハ商標法ニ依リ發生シタル商標權ハ朝鮮ニ於テ韓國商標令ニ依リ發生シタル商標權ハ朝鮮以外ニ於テ其ノ效力ヲ有セス

第四條 明治四十三年勅令第三百三十六號第一條乃至第三條及第五條ノ規定ハ商標ニ關シ之ヲ準用ス

第五條 韓國商標令ハ之ヲ廢止ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條ニ依リ著作權法ヲ朝鮮ニ施行スルコトニ關スル件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年八月二十九日

大内閣總理大臣兼	陸軍大臣
侯爵桂太郎	子爵寺內正毅

外務大臣	伯爵	小村壽太郎
海軍大臣	男爵	齋藤實
內務大臣	法學博士 男爵	平田東助
遞信大臣	男爵	後藤新平
文部大臣	兼	小松原英太郎
農商務大臣	兼	
司法大臣	子爵	岡部長職

勅令第三百三十八號

韓國著作權令ニ依ル登録ハ之ヲ著作權法ニ依ル登録ト看做ス

韓國著作權令ハ之ヲ廢止ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕朝鮮ニ於ケル特許辨理士ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年八月二十九日

內閣總理大臣	侯爵	桂 太 郎
農商務大臣		小松原英太郎

勅令第三百三十九號

韓國特許辨理士令ニ依ル登録ハ特許辨理士令ニ依ル登録ト看做ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○制 令

朝鮮ニ於ケル法令ノ效力ニ關スル件明治四十三年勅令第三百二十四號第一條及第二條ニ依リ勅
裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

明治四十三年八月二十九日

統 監 子爵寺 内 正 毅

制令第一號

朝鮮總督府設置ノ際朝鮮ニ於テ其ノ效力ヲ失フヘキ帝國法令及韓國法令ハ當分ノ内朝鮮總督ノ
發シタル命令トシテ尙其ノ效力ヲ有ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

居留地ノ行政事務ニ關スル件明治四十三年勅令第三百二十四號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得
テ茲ニ之ヲ公布ス

明治四十三年八月二十九日

統 監 子爵寺 内 正 毅

制令第二號

仁川濟物浦、鎮南浦、木浦、群山、馬山浦及城津ニ於ケル各國居留地並仁川、釜山及元山ニ於ケル清國居
留地ノ行政ハ警察ニ關スル事項ヲ除クノ外當分ノ内從前ノ例ニ依ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

地稅等特別免除ニ關スル件明治四十三年勅令第三百二十四號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

明治四十三年八月二十九日

統監 子爵寺内 正毅

制令第三號

第一條 左ニ掲クルモノハ特ニ其ノ納入又ハ還納ノ義務ヲ免除ス

一 本年分地稅ニシテ平安南北及咸鏡南北ノ四道ハ第二期其ノ他ノ各道ハ第一期ニ納付スヘキ額ノ五分ノ一

二 隆熙二年分以前ノ地稅ニシテ本令施行ノ日迄ニ未納ニ屬スルモノ

三 隆熙三年法律第十四號第一條ニ掲クル欠逋金ニシテ本令施行ノ日迄ニ未納ニ屬スルモノ

四 隆熙三年以前ノ貸附ニ係ル社還米ニシテ本令施行ノ日迄ニ還納未済ニ屬スルモノ

第二條 前條第三號ニ依リ免除シタル欠逋金ニ就キ提供シタル擔保物件アルトキハ之ヲ擔保提供者ニ還付スヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮ニ於ケル關稅及移出入稅ニ關スル件明治四十三年勅令第三百二十四號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

明治四十三年八月二十九日

統監 子爵寺内 正毅

制令第四號

第一條 外國ヨリ朝鮮ニ輸入スル貨物及朝鮮ヨリ外國ニ輸出スル貨物ニ付テハ當分ノ内從來ノ稅率ニ依リ輸出入稅ヲ賦課ス

第二條 内地臺灣及樺太ヨリ朝鮮ニ移入スル貨物ニ付テハ當分ノ内從來ノ輸入稅ト同一ノ稅率ニ依リ移入稅ヲ賦課ス

朝鮮ヨリ内地臺灣及樺太ニ移出スル貨物ニ付テハ當分ノ内第一條ノ移出稅ト同一ノ稅率ニ依リ移出稅ヲ賦課ス

第三條 外國並内地臺灣及樺太ヨリ入港スル船舶ニ對シテハ當分ノ内從來ノ稅率ニ依リ噸稅ヲ賦課ス

第四條 輸出入及移出入ノ貨物及出入船舶ノ取扱ニ關シテハ當分ノ内從來ノ輸出入貨物及船舶ノ取扱ニ關スル例ニ依ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○府令

統監府令第五十號

朝鮮總督ノ發スル制令ノ公布式左ノ通定ム

明治四十三年八月二十九日

統監 子爵寺内 正毅

第一條 朝鮮總督ノ發スル制令ハ其ノ制令ナルコトヲ明記シ朝鮮總督之ニ署名シ公布ノ年月日

ヲ記入シテ之ヲ公布ス

第二條 制令ハ朝鮮總督府官報ヲ以テ之ヲ布告ス

第三條 制令ハ特ニ施行期日ヲ掲クルモノヲ除クノ外其ノ各官廳ニ到達シタル翌日ヨリ起算シ

滿七日ヲ經テ之ヲ施行ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

統監府令第五十一號

統監府令公文式中左ノ通改正ス

「統監府公報」ヲ「朝鮮總督府官報」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年八月二十九日

統監 子爵寺内 正毅

統監府令第五十二號

條約ニ依リ居住ノ自由ヲ有セサル外國人ニシテ勞働ニ従事スル者ハ特ニ地方長官ノ許可ヲ受ク

ルニ非サレハ従前ノ居留地以外ニ於テ居住シ又ハ其ノ業務ヲ行フコトヲ得ス

前項ノ勞働ノ種類ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年八月二十九日

統監 子爵寺内 正毅

○統監府訓令

統監府訓令第十六號

各理事廳理事官

本日公布ノ併合條約ニ依リ韓國ハ帝國ニ併合セラレ自今朝鮮ト改稱シテ帝國領土ノ一部トナリ
 域内ノ人民ハ悉ク帝國ノ治下ニ立テ政令是ヨリ一途ニ出テ皆皇化ノ惠澤ニ浴スヘシ然レトモ朝
 鮮現時ノ狀態ハ未タ全ク帝國内地ト同シカラサルモノアリ故ニ帝國法令ニシテ直ニ朝鮮ニ適用
 セラルルモノノ外併合ノ結果朝鮮ニ於テ效力ヲ失フヘキ帝國法令及韓國法令ハ爾後總督ノ命令
 トシテ其ノ效力ヲ存續シ將來時勢ノ進運ニ從ヒ漸テ改修ヲ加フヘシ居留民團ハ元來外國ニ
 住居スル帝國臣民ノ設立スル團體ニシテ朝鮮カ帝國ノ版圖ニ歸シタル以上ハ自然地方行政機關
 ニ編入セラルヘキモノナリト雖今俄ニ之ヲ廢止スルニ便ナラサル事情アルニ依リ暫ク其ノ存在
 ヲ認メ將來之ニ代ルヘキ地方制度ノ完成ヲ待テ其ノ整理ヲ爲サシムヘシ又韓國及外國間ノ諸條
 約ハ消滅ニ歸シ帝國及外國間ノ諸條約ハ事情ノ許ス限リ朝鮮ニ適用セラレ該條約國ノ臣民及人
 民ハ帝國内地ニ於ケルト同様ノ權利及特典ヲ享有スルト共ニ總テ帝國ノ法權ニ服從スルコトト
 ナリ隨テ朝鮮ニ在留スル外國人ニ係ル訴訟事件ハ之ヲ帝國裁判所ニ於テ管轄スルコト恰モ他ノ
 一般人民ニ關スル場合ト同一ナルヘシ關稅ニ至テハ之ト稍其ノ事情ヲ異ニシ今直ニ帝國ノ關稅
 法又ハ協定稅率ヲ適用スルトキハ管ニ外國貿易ニ劇變ヲ與フルノミナラス内國ノ經濟關係ニ對

シ重大ナル影響ヲ及スヘキカ故ニ帝國政府ハ當分ノ内總テ從來ノ慣例ヲ繼續スルコトニ決シ條
 約上ノ規定ニ拘ラス朝鮮ノ輸出入貨物ニ對シテハ從來ト同率ノ關稅ヲ課シ又帝國內地ト朝鮮ト
 ノ間ニ出入スル貨物ニ付テモ從來ト同率ノ移出入稅ヲ課スルコトト爲セリ
 元來併合ノ趣旨タルヤ兩國相合シテ一體ト爲リ彼我ノ差別ヲ撤去シ相互全般ノ安寧幸福ヲ増進
 セムトスルニ外ナラス然ルニ之ヲ以テ強弱兩國ノ成敗ト爲シ驕慢自ラ持シ輕浮ノ言行ニ出ツル
 カ如キコトアラハ是レ實ニ其ノ本旨ヲ沒却スルモノト謂フヘシ從來本邦ノ居留民ハ多クハ異郷
 ニ僑居スルノ想ヲ爲シ動モスレハ自ラ高フシテ他ヲ蔑視スルノ弊アリ若今日ノ改革ニ際シ一層
 倨傲ノ心ヲ增長シ新附ノ人民ニ凌辱ヲ加フルカ如キコトアラハ却テ彼等ノ惡感隔意ヲ招キ事毎
 ニ扞格ヲ生シ將來永ク相融和スル機ナクシテ遂ニ不測ノ禍ヲ醸スニ至ルヘシ今幸ニ此ノ更始一
 新ノ時ニ會ス宜シク其舊想前態ヲ一變シ新附ノ領民ハ即我カ同胞タルコトヲ念ヒ之ニ接スルニ
 同情ヲ以テシ之ヲ待ツニ友誼ヲ以テシ相提携シテ處世ノ事ニ從ヒ以テ國家ノ隆昌ニ貢獻スルコ
 トニ努ムルヲ要ス
 貴官ハ以上ノ趣旨ニ基キテ管下一般ノ居住民ヲ指導シ將來施政ノ效果ヲ擧クルニ於テ遺漏ナキ
 コトヲ期セララルヘシ

明治四十三年八月二十九日

統監 子爵寺内 正 毅

○諭告

勅聖文武 天皇陛下ノ大命ヲ奉シ本官今ヤ朝鮮統轄ノ任ニ膺ルニ際シ茲ニ施政ノ綱領ヲ示シテ朝鮮上下ノ民衆ニ諭告ス
夫レ疆域相接シ休戚相倚リ民情亦昆弟ノ誼アルモノ相合シテ一體ヲ成ヌハ自然ノ理必至ノ勢ナリ是ヲ以テ大日本國 天皇陛下ハ朝鮮ノ安寧ヲ確實ニ保障シ東洋ノ平利ヲ永遠ニ維持スルノ緊切ナルヲ念ヒ前韓國元首ノ希望ニ應シ其ノ統治權ノ讓與ヲ受諾シ給ヒタリ自今前韓國ノ皇帝陛下ハ昌德宮李王殿下ト稱セラレ皇太子ハ王世子トナリテ後嗣長ヘニ相繼承シ萬世無窮タルヘシ太皇帝陛下ハ德壽宮李太王殿下ト稱セラレ竝ニ皇族ノ禮遇ヲ賜ハリ其ノ秩俸ノ豐厚ナル皇位ニ在スノ時ト異ル所ナカルヘシ朝鮮民衆ハ盡ク帝國ノ臣民ト爲リ 天皇陛下撫育ノ化ヲ被ムリ長ヘニ深仁厚德ノ惠澤ニ浴スヘシ殊ニ忠順ニ新政ヲ翼賛スル賢良ハ其ノ功勞ニ準シ榮爵ヲ授ケラレ恩金ヲ賜ハリ又其ノ材能ニ應シ帝國ノ官吏トシテ或ハ中樞院議官ノ班ニ列セラレ或ハ中央若ハ地方官廳ノ職員ニ登用セララルヘシ

又班族儒生ノ耆老ニシテ恭謙能ク庶民ノ師表タル者ニハ尙齒ノ恩典ヲ與ヘラレ孝子節婦鄉黨ノ模範タル者ニハ褒賞ヲ賜リ以テ其ノ德行ヲ表彰セララルヘシ曩ニ地方官吏ノ職ニ在リ國稅欠逋ノ行爲アリタル者ハ其ノ責任ヲ解除シ特ニ其ノ未勘金ノ完納ヲ免セララルヘシ又從前法律ニ違反シタル者ニシテ其ノ犯罪ノ性質特ニ愍諒スヘキ者ニ對シテハ一律ニ大赦ノ特典ヲ與ヘラルヘシ

如今地方ノ民衆積弊ノ餘孽ヲ受ケ或ハ業ヲ失ヒ產ヲ傾ケ又甚シキハ流離饑餓ニ瀕スル者アリ依テ先ツ民力ノ休養ヲ圖ルノ急務ナルヲ認メ隆熙二年度以前ノ地稅ニシテ今尙未納ニ係ルモノハ之ヲ免除シ隆熙三年以前ノ貸付ニ係ル社穀ハ其ノ還納ヲ特免セシメ且本年秋季ニ徵收スヘキ地稅ハ特ニ其ノ五分ノ一ヲ輕減シ更ニ國帑約一千七百萬圓ヲ支出シ之ヲ十三道三百二十有餘ノ府郡ニ配與シ以テ士民ノ授産教育ノ補助竝凶歉ノ救濟ニ充テシムヘシ是皆斯ノ更始一新ノ時ニ方リ惠撫慈養ノ聖旨ヲ昭ニスル所以ナリ然リト雖國政ノ利澤ヲ蒙ル者其ノ分ニ應シテ國費ヲ負擔スルハ天下ノ通則ニシテ古今東西皆然ララルハ莫シ故ニ克ク這般救恤ノ本旨ヲ體シ或ハ恩ニ狃レテ奉

公ノ心ヲ失ハサランコトヲ期スヘシ
 凡ソ政ノ要ハ生命財産ノ安固ヲ圖ルヨリ急ナルハ莫シ蓋シ殖産ノ方興業ノ途之ニ次テ振作スルヲ得ヘケレハナリ從來不逞ノ徒頑迷ノ輩遐邇ニ出沒シ或ハ人ヲ殺シ財ヲ掠メ或ハ非謀ヲ企テ騷擾ヲ起ス者アリ是ヲ以テ帝國ノ軍隊ハ各道ノ要所ニ駐屯シテ時變ニ備ヘ憲兵警官ハ普ク都鄙ニ互リテ專ラ治安ノ事ニ從ヒ又各地ニ法廷ヲ開キテ公平無私ノ審判ヲ下スニ努ム是固ヨリ奸兇ヲ懲罰シ邪曲ヲ芟除セムカ爲ナリト雖畢竟國內全般ノ安寧秩序ヲ維持シ各人ヲシテ其ノ堵ニ安シテ業ヲ營ミ産ヲ治メシムトスルニ外ナラス今朝鮮ノ地勢ヲ通觀スルニ其ノ南土ハ肥沃ニシテ農桑ニ適シ其ノ北地ハ概テ礦物ニ富ミ内河外海亦魚介多シ遺利餘澤ノ獲收スヘキモノ鮮少ナリトセス其ノ開發ノ方法宜シキヲ得ハ産業ノ振作期シテ待ツヘシ而シテ産業ノ發達ハ主トシテ運輸機關ノ完成ニ俟タサルヘカラス是事ヲ創メ業ヲ起スノ階梯ナレハナリ今通路ヲ十三道ノ各地ニ開キ鐵道ヲ京城元山間及三南地方ニ新設シ漸ク以テ全土ニ及ホサムトス斯ノ如クニシテ大成ヲ將來ニ期スルト共ニ其ノ開鑿敷設ノ工程ニ於テ衆民ニ生業ヲ與ヘ其ノ窮乏ヲ拯フノ一助タ

ルヘキヲ疑ハス朝鮮古來ノ流弊ハ好惡乖迕唯利ヲ以テ相爭フニ在リ是ヲ以テ一黨勢ヲ得レハ忽チ他派ヲ戕ハムトシ一派力ヲ占ムレハ輒チ他黨ヲ仆サムトシ頡頏排擠其ノ窮極スル所ヲ知ラス終ニ産ヲ破リ家ヲ亡ホス者尠シトセス是尺害アリテ寸益ナシ爾後黨ヲ樹テ社ヲ結ヒ徒ニ輕舉妄動ヲ事トスルカ如キコトアルヘカラス但シ政令洽ク下ニ及ハス民意動モスレハ上ニ達セスシテ上壓下怨ノ弊ヲ醸スハ古今其ノ例ニ乏シカラス依テ中樞院ノ規模ヲ擴張シ老成ノ賢良ヲ網羅シテ其ノ議官ニ列シ重要ナル政務ノ諮詢ニ應セシメ又各道及各府郡ニハ參與官又ハ參事ノ職ヲ設ケ能士俊材ヲ登用シテ之ニ充テ其ノ言議ヲ徵シ其ノ獻策ニ聽キ以テ政令ト民情ト相牴牾スル所ナカラシムコトヲ期ス

凡ソ人生ノ憂患ハ疾病ヨリ酷シキハ莫シ從來朝鮮ノ醫術ハ未タ幼稚ノ域ヲ脱セスシテ以テ病苦ヲ救ヒ天壽ヲ全フセシムルニ足ラス是最モ痛嘆スヘキ所ナリ曩ニ京城ニ中央醫院ヲ開キ又全州清州及咸興ニ慈惠醫院ヲ設ケテ以來衆庶ノ其ノ恩波ヲ蒙ル者極メテ多シト雖未タ全土ニ普及セサルヲ遺憾トシ既ニ令ヲ發シテ更ニ各道ニ慈惠醫院ヲ増設セシメ名醫ヲ置キ良藥ヲ備ヘ

汎ク起死回生ノ仁術ヲ施サジメムトス
 顧フニ人文ノ發達ハ後進ノ教育ニ俟タサルヘカラス而シテ教育ノ要ハ智ヲ
 進メ徳ヲ磨キ以テ修身齊家ニ資スルニ在リ然ルニ諸生動モスレハ勞ヲ厭ヒ
 逸ニ就キ徒ニ空理ヲ談シテ放漫ニ流レ終ニ無爲徒食ノ遊民タル者往々ニシ
 テ之レ有り自今宜シク其ノ弊ヲ矯メ華ヲ去リ實ニ就キ懶惰ノ陋習ヲ一洗シ
 テ勤儉ノ美風ヲ涵養スルコトニ努ムヘシ
 信教ノ自由ハ文明列國ノ均シク認ムル所ナリ各人其ノ崇拜スル教旨ニ倚リ
 以テ安心立命ノ地ヲ求メムトスルハ固ヨリ其ノ所ナリト雖宗派ノ異同ヲ以
 テ漫ニ紛爭ヲ試ミ又ハ名ヲ信教ニ藉リテ明ニ政事ヲ議シ若ハ異圖ヲ企テム
 トスルカ如キハ即チ良俗ヲ荼毒シ安寧ヲ妨害スルモノナルヲ以テ當ニ法ヲ
 案シテ處斷セサルヘカラス然レトモ儒佛諸教ト基督教トヲ問ハス其ノ本旨
 ハ畢竟人心世態ノ改善ニ在ルカ故ニ固ヨリ施政ノ目的ト背馳セサルノミナ
 ラス却テ之ヲ裨補スヘキモノタルヲ疑ハス是以テ各種ノ宗教ヲ待ツニ毫
 モ親疎ノ念ヲ挾マサルハ勿論其ノ布教傳道ニ對シテハ適當ナル保護便宜ヲ
 與フルニ吝ナラサルヘシ

本官今 聖旨ヲ奉シテ此ノ地ニ蒞ムヤ一ニ治下生民ノ安寧幸福ヲ増進セム
 ト欲スルノ外他念アルナシ是レ茲ニ諄々トシテ其ノ適從スヘキ所ヲ諭示ス
 ル所以ナリ尙漫ニ妄想ヲ逞ウシ政ヲ施設ヲ妨碍スル者アラハ斷シテ假借ス
 ル所ナカルヘシ若シ夫レ忠誠身ヲ持シ謹慎法ヲ守ルノ良士順民ニ至ツテハ
 必ス皇化ノ惠澤ニ霑ヒ其ノ子孫亦永ク恩波ニ浴スヘシ爾等恪テ新政ノ宏謨
 ナ奉體シテ苟モ違フ所アル勿レ

明治四十三年八月二十九日

統 監 子爵 寺 内 正 毅

○王族及公族稱呼

王族及公族ノ稱呼左ノ通御治定相成リタリ

昌德宮	李	王殿下
德壽宮	李	太王殿下
王世子	李	根殿下
李	公	殿下
李	公	殿下
李	公	殿下

○韓國併合ニ關スル宣言

韓國併合ノ件ニ關シ帝國政府ハ韓國トノ間ニ條約ヲ有シ又ハ韓國ニ於テ最惠國待遇ヲ享クヘキコトトナリ居リタル獨逸國、亞米利加合衆國、奧地利、洪牙利國、白耳義國、清國、丁抹國、佛蘭西國、大不列顛國、伊太利國及露西亞國ノ各政府ニ對シ左ノ宣言ヲ爲シタリ

明治三十八年日韓協約成リテヨリ茲ニ四年有餘其ノ間日韓兩國政府ハ銳意韓國施政ノ改善ニ從事シタリト雖同國現在ノ統治制度ハ尙未タ十分ニ公共ノ安寧秩序ヲ保持スルニ足ラス衆民疑懼ノ念ヲ懷キ適歸スル所ヲ知ラサルノ狀アリ韓國ノ靜謐ヲ維持シ韓民ノ福利ヲ増進シ併セテ韓國ニ於ケル外國人ノ安寧ヲ計ルカ爲ニハ此ノ際現制度ニ對シ根本的ノ改善ヲ加フルノ必要アルコト瞭然タルニ至レリ

日韓兩國政府ハ前記ノ必要ニ應シテ現在ノ事態ヲ改良シ且將來ノ安固ニ對シテ完全ナル保障ヲ與フルノ急務ナルヲ認メ日本國皇帝陛下及韓國皇帝陛下ノ承認ヲ經兩國全權委員ヲシテ一ノ條約ヲ締結セシメ全然韓國ヲ日本帝國ニ併合スルコトトナセリ

該條約ハ八月二十九日ヲ以テ之ヲ公布シ同日ヨリ直ニ之ヲ施行スヘク日本帝國政府ハ同條約ノ結果朝鮮ニ關スル統治ノ全部ヲ擔當スルコトナレルヲ以テ茲ニ左ノ方針ニ依リ外國人及外國貿易ニ關スル事項ヲ處理スヘキコトヲ表明ス

一 韓國ト列國トノ條約ハ當然無効ニ歸シ日本國ト列國トノ現行條約ハ其ノ適用シ得ル限朝鮮ニ適用セララルヘシ

朝鮮ニ在留スル諸外國人ハ日本法權ノ下ニ於テ事情ノ許ス限日本内地ニ於ケルト同一ノ權利及特典ヲ享有シ且其ノ適法ナル既得權ノ保護ヲ受ク

日本帝國政府ハ併合條約施行ノ際現ニ朝鮮ニ於ケル外國領事裁判所ニ繫屬スル事件ハ最終ノ決定ニ至ル迄其ノ裁判ヲ續行セシムルコトヲ承諾スヘシ

二 日本帝國政府ハ從來ノ條約ニ關係ナク今後十年間朝鮮ヨリ外國ニ輸出シ又ハ外國ヨリ朝鮮ニ輸入スル貨物及朝鮮開港ニ入ル外國船舶ニ對シ現在ト同率ノ輸出入税及噸税ヲ課スヘシ

朝鮮ヨリ日本ニ移出シ又ハ日本ヨリ朝鮮ニ移入スル貨物及朝鮮開港ニ入ル日本船舶モ亦今後十年間前項ノ貨物及船舶ニ對スルト同率ノ課税ヲ受クルモノトス

三 日本帝國政府ハ今後十年間日本國トノ條約國ノ船舶ニ對シ朝鮮開港間及朝鮮開港ト日本開港間ノ沿岸貿易ニ從事スルヲ許スヘシ

四 從來ノ開港場ハ馬山浦ヲ除クノ外舊ニ依リ之ヲ開港トナシ更ニ新義州ヲモ開港トシ内外船舶ノ出入及之ニ依ル貨物ノ輸出入ヲ許スヘシ

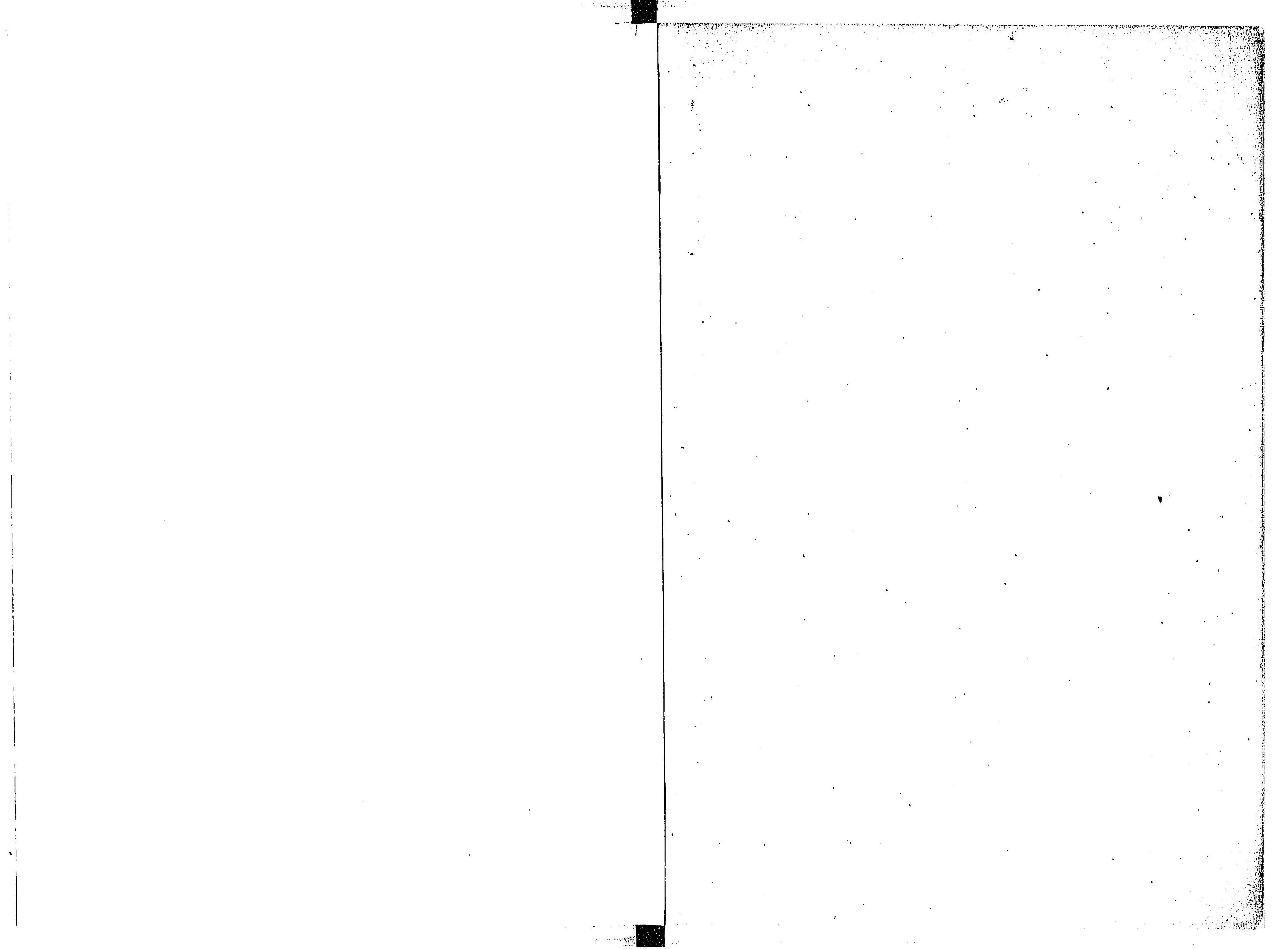
帝國政府ハ又亞爾然丁國、伯刺西爾國、智利國、格倫比亞國、西班牙國、希臘國、墨西哥國、諾威國、和蘭國、祕露國、葡萄牙國、暹羅國、瑞典國及瑞西國ノ各政府ニ對シ左ノ宣言ヲ爲シタリ

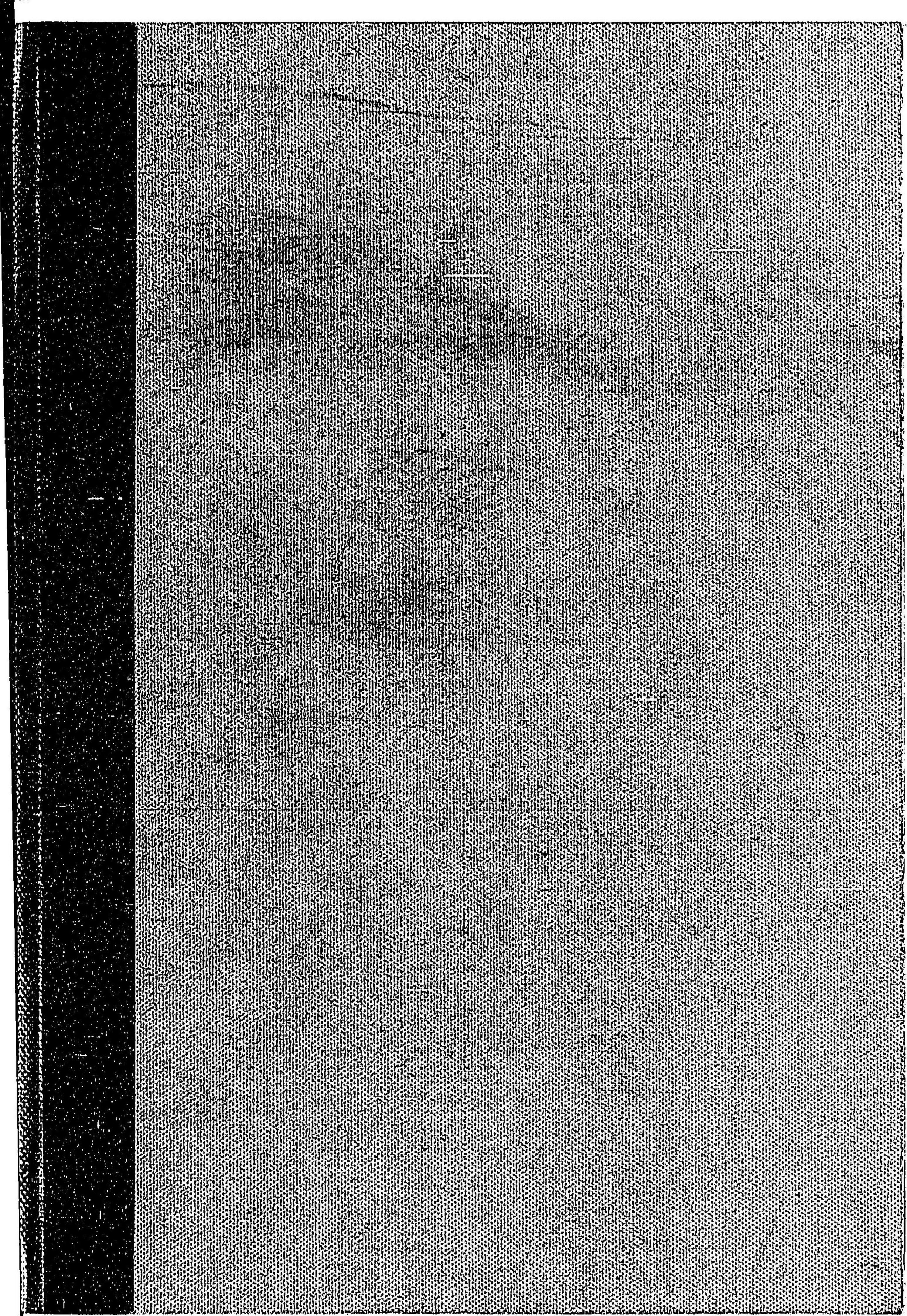
明治四十三年八月二十二日日本國ト韓國トノ間ニ締結セラレタル條約ニ依リ韓國ハ日本國ニ併合セラレ本日ヨリ日本帝國ノ一部ヲ成スコトトナレリ爾今日本國ト列國トノ現行條約ハ其ノ適用シ得ル限朝鮮ニ適用セララルヘク該現行條約ヲ有スル列國ノ臣民又ハ人民ハ朝鮮ニ於テ事情ノ許ス限日本内地ニ於ケルト同一ノ權利及特典ヲ享有スヘシ

3070
10

明治四十三年九月八日

統
監
府





C3
13
A015

韓國併合顛末書

統監府

国立国会図書館

030866-000-0

CZ-13-A-015

韓国併合顛末書

統監府

M43

BBC-0052

